

第20回 議会改革調査特別委員会 会議録

日 時 令和8年1月20日（火曜日） 午前10時 ～ 午前12時11分
場 所 白杵庁舎議会棟 議会応接室

出席委員の氏名

委員長 伊藤 淳 副委員長 梅田 徳男
委 員 川辺 隆 委 員 芝田 英範 委 員 安東 鉄男
委 員 甲斐 尊 委 員 平川 幸司

欠席委員の氏名

（ な し ）

オブザーバー

（ な し ）

説明のため出席した者の職氏名

（ な し ）

出席した事務局職員の職氏名

局長 林 昌英 次長 小嶋佳希 書記 原 伸行 副主幹 工藤真里子

傍聴者

（ な し ）

協議事項

1. 議会体験会について（振り返り）
 2. 議員間討議会について
 3. 市民アンケート結果の検証について
 4. 協議事項の整理について
 5. その他
-

午前10時 開議

協議事項

1. 議会体験会について（振り返り）

◎事務局（原 伸行）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（伊藤 淳）

各委員の意見を聞く前に、北中学校にお礼にいった際の担当教諭との意見交換した内容を紹介したい。今回の議会体験会は、社会科の授業の中で行うこととしたが、その理由としては、中学校3年生の2学期の社会科で地方自治のことを学んでいること。今の生徒たちは、ネット空間で情報を取得ができるため、リアルな現場を知る体験が元々不足していると感じていたことだったとのこと。実施した感想としては、リアルな現場を体験できたことは有意義であり、可能であれば継続したいという評価だった。また、担当教諭から、生徒たちの反響について、生徒が提出した感想の他に、1日目の体験会終了後の休み時間に、生徒たちが、校区内の課題解決について疑似議会を行っていた姿を見たということをお聞きした。また、今回は議場に来ていただいて議会体験を行ったが、学校側の時間が取れない時には、議員が学校に出向くことで、今回の議会体験の一部分を行うなど、時間を短縮すると学校側の負担がより少なくなるのではというご意見もいただいた。担当教諭の意見を聞いて、今回の議会体験会を通して、リアルな体験を提供し、社会科の学習としてお役に立つことができたと感じたところ。各委員の感想や今後に向けての意見をお願いしたい。

○委員（意見）

- ・体験会の感想としては、実施して良かった。ただ、生徒の感想を見てみると、『議員に聞いてみよう』の質疑に対する回答を誤解している点がいくつかあったので、回答がうまく伝わっていない部分があると感じた。
- ・生徒の感想を見てみると、いい経験になったという意見が多くあり、やって良かったと実感。継続するとよいと思うが、対象を特定の学校とせず、また、毎年全中学校を対象とするのも難しいので、教育委員会と相談しながら、ローテーションなどをしながら行えれば良いと思う。その場合、野津中学校は、議場までの距離があり、往復で移動に1時間かかるので、その点も配慮が必要となると思う。
- ・議会体験会当日の内容は良かった。生徒の顔を見た時、生き生きして喜んでいるよう見えたのでやって良かったと感じた。『議員に聞いてみよう』の質疑のやり取りの時間に余裕がなく、深掘りできなかった。また、質問を事前に確認した際、回答に当たっては、執行部に確認しないといけないものが多く、執行部に迷惑をかけたと感じている。
- ・他の中学校もあるので、続けていければ良いと思う。
- ・生徒が議員の名刺を見て、すごく感動している様子を見かけたので、自分も渡せば良かったと思った。
- ・総体的にみると、段取り良く成功だったと思う。ただ、『議員に聞いてみよう』の質疑のやり取りが時間のこともあり、もう少し深めることができれば、なお、良かったと感じた。

今後の展開としては、子ども達が議会で自らの意見を言ってみる場として、子ども市議会を行えればと思った。子ども市議会を実施する場合、執行部側を巻き込み行う必要があるため、協議が必要となると思うが、そういう取り組みにつなげることができればと感じた。

- ・実施内容は本当に素晴らしく、生徒の感想も、議会・議員・選挙に対し、前向きに取り組んでいこうという意見がでていたので良かった。『議員に聞いてみよう』では、質問事項に対し時間が短く、あまり多くのことはできなかった。
- ・子ども市議会を実施しなくなった際、教育委員会に議会体験会を提案したが、その時は、学校ごとに年間のカリキュラムがあり、受け入れてもらえなかった。今回は、北中学校からの申し出があり、社会科の授業の中で議会体験会を行った。結果として、良い体験が提供できることがわかった。次に進めるためには、2度3度と行い定着を図らなければならないと思う。通常であれば、来年度はないものだと思うが、継続を願うならば、教育委員会を通して、手を挙げてくれる中学校が出るようお願いするしかないと思う。
- ・生徒たちの感想を見ると、議会で素晴らしい体験ができた・感動したとあるが、それは本音ではないと思う部分もあるが、今後、学校生活の中で、議会を実感・学ぶことができる環境が当たり前になっていくよう、議会から、学校に働きかけることが必要だと思う。
- ・議会体験会は、議員がそれぞれ一部分を担当して進めたので、自分の担当以外の内容は、全然わからなかった。より良い内容とするため、議員も全体の内容を把握でき、実施後に内容を省みることができるような、工夫がいたるのではと感じた。
- ・参加した生徒にクリアファイルやボールペンなど、何かお土産を配ることができれば良いと思う。ただ、『議員に聞いてみよう』で委員会室に来た生徒全員に名刺を配って見たら、すごく喜んでいた。

⇒ (回答) ○委員長 (伊藤 淳)

名刺の配布については、すごく喜ばれたことがあったので、生徒の反応は想像できる。ただし、配布の仕方等によっては、選挙違反となる可能性がある。議員は注意事項を把握されていると思うので、その点は注意してほしい。

【協議結果】 ・議会体験会は有意義な機会なので、継続して実施する。定例的に実施することで、定着を図るよう実施内容について、教育委員会等と相談しながら、引き続き検討していく。

2. 議員間討議会について

◎事務局 (原 伸行)

(配付資料に基づき説明)

○委員 (意見)

- ・整理が難しいと思う。通常の議論は、方向性や結論を持ちながら、話をしていくものだと思うが、議員間討議会では自由に意見を出すものとなっている部分もあり、今の内容を引き継いでいけるようまとめるのは難しいように感じる。

- ・議員間討議会をやってみて、一人一人の議員の個人的な考え方を聞ける場を作ったのは良かった。『食文化』についての討議会では、提案していることについて深掘りはできなかった。議員間討議会を継続することについては、判断がつかない。全員の意見を聞く場を作ることは大切だと感じるが、今後の実施判断は次の議会構成の中で判断すべきことだと思う。
- ・議員間討議会のゴールがどこなのか。また、それが幾つあるのかわからない状況で行ってきたことで、定型的なものになっていない。引き継いでやりましょうとはならないと感じた。
- ・ゴールが明確になっていないままで、当初は話すことが目的で、議員が話した内容を繋げて政策提言してみようというのは苦しいなと思いながら参加してきた。とにかく話をしたことは良かったと思う。18人の知見を聞いて勉強になったが、今回の『食文化』に関して、政策提言に繋げるのは難しいと感じている。4月の改選後に、議員間討議会の在り方について熟慮して、方向性を考えるところから始めれば良いと感じた。
- ・『食文化』に関して結論を3月定例会までに出すのは難しい。議員間討議会の今後の在り方については、どのような結論とするかは今後検討したい。
- ・議員間討議会により、議員全員がまとまった意見を議会の総意としてつくり、提言を行うとすると執行部への圧力となり得る。また、議員の中ではまとまった意見ではあるが、その意見について、審査する場もない危険な側面があることも踏まえ、取り組む必要がある。
- ・政策について議論するのであれば、以前実施していた政策討論会について研究するべき。政策討論会では、議会が執行部を呼んで内容を聞き、それに対し議会内で意見を練って述べたり、提案したりしていた。今はそういう場がなく、議員間討議会が今後の政策討論会へ繋がるものになり得るように感じた。
- ・議員間討議会は、当初何でも話してみようと思ったため、結論の結びが難しい。一つのテーマに対し、議員それぞれがどのような考え方を持っていることが分かったのは良かったが、政策提言などに結びつけるまでの流れを研究する必要があると感じた。
- ・議員間討議会で行うテーマについては、政策提言に向けて行えるものとそうではないものがあると思う。また、討議し始めないとゴールが見えない部分もあり、難しさがあると思う。
- ・政策提言以上に、議会・議員の課題について、議員全員が集まって話し合い、決めていくようにする場として、議員間討議会を行うとよいと思う。各政策の検討は、議員それぞれの立場があり、考え方をまとめるのは難しい。議会がまず手をだせる範囲、議会として解決できるものについて、討議し対応していくとよいと思う。

【協議結果】

- ・議員間討議会の今後の在り方、活用の仕方については、継続検討。
- ・『食文化』をテーマとする議員間討議会は、その検討の経過などを今後の在り方等の中で活用し、『食文化』に関する新たな提言等は行わない。

3. 市民アンケート結果の検証について

◎事務局（原 伸行）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（伊藤 淳）

議員定数等調査特別委員会で議員定数等の検討のための市民アンケートの自由意見の項目を議会改革の今後の取り組みに生かすために、自由意見を6つの分類項目案のとおり分類し、次回以降にその傾向等を検証したいと思っている。

○委員（意見）

- ・分類項目（6）『多様な市民を受け止めるための議員の多様化』はどのような自由意見の分類するよう想定しているのか。

⇒（回答）◎事務局（原 伸行）

自由意見の中で、若者や女性の議員を増やしてほしいや議員の定年制についての意見が一定数あったので、その受け皿となる分類を想定している。

- ・市民アンケート自体が、議員定数に関するものだったため、議員定数に関する意見も多くあったと思うが、それはどの部分に分類するのか。

⇒（回答）○委員長（伊藤 淳）

今回の検討には関わらないため、分類項目を設けていない。しかし、例えば『定数を減らしたほうが良い』という自由意見は、分類項目（3）『議会運営の効率性を高める』部分に分類することとしたい。

【協議結果】 提案のとおり決定

4. 協議事項の整理について

◎事務局（原 伸行）

（ 配付資料に基づき説明 ）

○委員長（伊藤 淳）

提案の6項目について今後整理していくこととしたいが、意見等あればお願いしたい。

○委員（意見）

- ・④『議会生配信の拡大』の拡大は何を指している表現だったか確認したい。

⇒（回答）◎事務局（原 伸行）

議会生配信については、従来から市役所内の執務室及び市民ホール等でも行っていたが、本委員会で協議し、令和7年9月定例会よりケーブルテレビの生中継を実証実験を行った上、令和8年度からYouTubeでの生配信も検討していることから、拡大と表記している。

○委員長（伊藤 淳）

提案の6項目を今後整理していくよう決定したい。各項目の整理は次回以降に行うが、当初予算の要求に関連するものについて、今後の方向性を本日協議したい。

◎事務局

(配付資料に基づき説明)

○委員長 (伊藤 淳)

④議会生配信の拡大については、令和8年度の年度当初よりケーブルテレビの生放送とYouTubeの生配信の実施について、議会改革調査特別委員会としての方向性について、ご意見をお伺いしたい。私自身の意見をいうと、ケーブルテレビの生放送を開始したが、議会運営に特に支障がない状態となっており、YouTubeとケーブルテレビは視聴する対象世代が異なることもあり、YouTubeの生配信もできるだけ早期に実施できればと考えている。

○委員 (意見)

- ・以前の協議の際に、県内各市の実施状況や実施後リスク等の調査の実施についての意見があったように記憶しているが、その点はどうなっているのか。

⇒ (回答) ◎事務局 (原 伸行)

インターネットで生配信を行っている市が6市、YouTubeで配信を行っているのが4市となっている。実施している市は少なくとも、リスクはそれぞれの考え方による部分もあるため、各市のリスク対応についての調査は行っていない。

- ・YouTubeの生配信の実施については、慎重に検討する必要がある、現時点で方向性や実施時期については、決定できないのではないかと。
- ・目指すべきところは、幅広い全年齢層に届けるのは理解できるが、予算措置が必要だからということで、現時点で方向性の決定は難しい。
- ・YouTubeを早めに実施することを賛成、ただ、反対の意見があるので、特別委員会での方向性の周知等に確認したい。

⇒ (回答) ◎委員長 (伊藤 淳)

これまでも全員協議会などでも決定ではないが報告してきたところなので、特別委員会として方向性ができれば、それをお伝えすることになると思う。まず、特別委員会としての方向性が出せればと考えている。

- ・YouTubeの生配信を目指すことは間違いないが、いつから実施するかはこれまで議論していない。今回の予算要求は理解できるが、必要になれば補正対応すれば良いのではないかと。令和7年9月定例会のケーブルテレビの生放送の視聴者数は少なかったため、費用対効果等を考え、ケーブルテレビの視聴状況の変化を1年間確認した上で、YouTubeの実施について検討することでよいと思う。
- ・現在の議員は、議会などで大きなトラブルなどが発生せず、懲罰議案等となる事案がなかったが、改選を控え慎重論もあるため、実施するとしても、改選後に補正し、実施することとすればよいのではないかと。
- ・議会としては、YouTube生配信を行う方向でよいと思う。
- ・ケーブルテレビの生放送で視聴者数が少ない中で、YouTubeを新たに始める必要性

も検討してよいと思う。予算措置は見送り、視聴数等を見ながら決定すれば良いのではないかと思う。

○委員長（伊藤 淳）

これまでの委員の意見であれば、Y o u T u b eを早めに実施するという委員が3名で、他の方は、実施を目指すが見証が必要しているとのことだったので、令和8年度の年度当初からの実施する方向性の決定は、見送るということとしたい。

○委員（意見）

・特別委員会でY o u T u b eの実施する、しないを決定できるわけではない。また、特別委員会の検討の段階で予算要求することも、おかしな話。特別委員会は、議長の諮問に対する結論を報告するだけで、報告を受けて、議長は結論を諮り決定する。そのプロセスを飛び越した議論になっているので、その点は注意したほうがよい。

・委員会として結論が出ない中、予算要求はできないということであれば、他の項目については、どうするのか。

⇒（意見）○別の委員

・議場コンサートなどは、全員協議会で今後も継続の方向性も示しており、予算化等について、問題はないという認識。

・Y o u T u b e実施を議会で決定したのちに、できるだけ速やかな実施のために前もって準備するよう予算要求するものであり、議論を飛び越して行ったものではない。

・多くの世代に届けるための選択肢として、Y o u T u b eだとは理解でき、やる方向で検討したとしても、現時点で、方向性を出すのは難しい。議論を重ね、方向性を出せばよいと思う。ただ、これまで何度か、別の団体などでY o u T u b eの配信を行ったが、視聴数は伸びないことがあった。費用対効果は少ない。ケーブルテレビの生放送の視聴実績が増え、次の一手として投資するのであれば反対はしない。

・Y o u T u b eでの配信を来年度中に実施する可能性があるのであれば、Y o u T u b eの加算部分は多額でないこともあり、予算を見込まなかった理由を求められる可能性があるので、予算要求は行っておくべき。

【協議結果】 協議項目については、提案のとおり決定

Y o u T u b eの生配信の拡大については、実施する方向ではあるが、開始時期は定めず、引き続き検討する。

5. その他

・今後のスケジュールについて

◎事務局（原 伸行）

（ 配付資料に基づき説明 ）

【協議結果】 第21回 2月12日（木）午前中

第22回 2月18日（水）午前中 以降の開催は今後協議。

午前12時11分 閉会

白杵市議会委員会条例第30条第1項の規定を準用し、ここに記録を作成する。

令和8年1月20日

議会改革調査特別委員会

委員長 伊藤 淳